

厚生労働大臣賞（優秀賞）

琵琶湖疏水を作られた皆さんへ

京都府 龍谷大学付属平安中学校 三年 鈴木 智尋

明治二十三年、琵琶湖疏水を作られた皆さん。今日、疏水は我々京都市民にとって欠かせないものになっています。生活で使っている全ての水は、琵琶湖から疏水を通じて私達の元に届きます。また、桜や紅葉の名所として、観光スポットとなっていて、地域の人々の憩いの場にもなっています。

私に通っていた小学校は疏水のそばにありました。小学四年生の時、社会科見学で疏水のルートをとったことがあります。その時、私はいつも飲んでいる水と疏水に対する思いが変わりました。滋賀県大津市にある長等山の麓から私達の住んでいる京都の間にはいくつもの山があります。疏水を通すには、その山々を越えなければいけません。皆さんが疏水を作られてから百三十二年が経ちました。現在は、技術が発展し、山の中に水路を通すことが簡単にできるようになりました。しかし、当時は大きな機械などがありません。ほとんど人の手で工事が進められました。その工事は危険なものではなかったでしょうか。現場で働いていた方々は、立坑から山の中に入り、シャベルで水路を掘り進めていました。その時、土砂崩れなどが起こったと思います。疏水を作るために十七人の方が亡くなったと聞いています。現場で活躍された皆さん、命をかけて作ってくださった疏水は今、京都の生活の中心となっています。疏水と共にできた蹴上発電所は場所を変えて今も活動しています。皆さんの努力は令和になった今でもはつきりと見ることが出来ます。

私は、いつでも安全でおいしい水が飲めることを当たり前だと思っ
ていました。しかし、疏水のルートをたどり、疏水について深く知っ
たことで、いつでも安全でおいしい水が飲めることは決して当たり前
ではないと気付きました。皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、大切に
していきたいです。

京都は疏水のおかげで水に困るということはありません。また、日本全体でもいつでもおいしく安全な水を手に入れることができます。しかし、世界は違います。世界では約十人に三人が安全な水を手に入れることができいません。二〇五〇年になると世界人口の四割以上が深刻な水不足に陥るとも推測されています。水不足に悩まされている地域の多くは、経済的に貧しい地域です。水を引きたくとも、水路を通すためのお金がないというのが現状です。安全な水を手に入れるのに貧乏の差は関係ないと思います。

皆さんが疏水を作るためにかかったお金はおよそ百二十万円（現在の価値で約二百億円）と伝えられています。そのお金は国や市だけでなく、当時の京都市民が出していました。当時の市民は疏水に大きな期待を寄せていたのです。疏水工事も費用が集まらなければいけないわけがありません。水不足に悩んでいる人に水を届けるには、一人一人の小さな行動が大事だと思います。水不足の地域に水路を通すためのお金をみんなが少しずつ出すのです。私達には募金という手段があります。一人一人の募金額は少なくても、日本人全員が一円ずつ入れれば、総募金額は一億円を上回ります。一億円あれば、水不足の地域に水路を通す助けになるはずです。疏水を作る気運が高まった当時の京都が首都が東京に移り、活気を失っていました。市民全員が京都を元気にしたいという思いがあったから疏水ができたと思います。

私達は、国は違っても、同じ地球人として水に困っている地域に水を届けようという気持ちを持ちたいです。そうすれば、水路を作るためのお金が集まるはずです。皆さんは疏水を作り、京都を明るくしてくれました。次は私達が協力して水の問題を解決し、世界を明るくする番です。静かに流れ続ける疏水が私達にそう語りかけている気がします。